

INFORMATION 【期間：平成28年】

著者	金沢大学十全医学会
著者別名	The Juzen Medical Society Kanazawa University
雑誌名	金沢大学十全医学会雑誌 = Journal of the Juzen Medical Society
巻	125
号	1
ページ	34-38
発行年	2016-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/45354

腎臓内科・検査部合同セミナー

演題：網羅的解析による遺伝子発現メカニズムの解剖

演者：村川泰裕先生（国立研究開発法人 理化学研究所 予防医療・診断技術開発プログラム）

日時：2016年1月26日（火）18：00～19：30

場所：金大病院CPDセンター

主催：金沢大学附属病院 腎臓内科/検査部

連絡先：金沢大学附属病院検査部 長原三輝雄（内線7153）

今回は、国立研究開発法人 理化学研究所 予防医療・診断技術開発プログラム マネージャーの村川泰裕先生をお迎えし、オミックス解析がもたらした“RNAの生と死”の最新の知見を、ご紹介いただきます。

また、本セミナーは、up-to-dateセミナー（循環医科学専攻）を兼ねます。大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。どうぞお気軽に御参加ください。

新学術創成研究機構 革新的統合バイオ研究コア セルバイオノミクスユニットセミナー

「各種精神疾患とAUTS2遺伝子をめぐる最近の展開」 星野 幹雄 先生（国立精神神経医療研究センター 神経研究所）

日時：平成28年1月26日（火）17：00～18：00

場所：金沢大学医学図書館 2階 十全記念スタジオ

AUTS2遺伝子（ヒトAutism Susceptibility Candidate 2）は、自閉症スペクトラム障害、知的障害、ADHD、統合失調症、薬物依存など様々な精神疾患患者でゲノム変異が見つかっていながらつい昨年未まで、そのコードするAUTS2蛋白質の機能は不明であった。そこで、星野先生はAUTS2蛋白質が神経細胞の細胞質において、低分子量G蛋白質の一つであるRac1とCdc42の活性を正負に制御することでアクチン細胞骨格系を再構成させること、そしてそれによって脳発達における神経細胞の移動と神経突起の伸長・分岐、およびシナプス形成に関与していることを明らかにした。

連絡先：学際科学実験センター ゲノム機能解析分野 堀家慎一 TEL：076-265-2775, E-mail: sihorike@staff.kanazawa-u.ac.jp

機能解剖学セミナー

演題：ミクログリアのシナプス貪食能 その生理的意義-医学科学生の実験結果から

演者：田中潤也先生（愛媛大学医学系研究科・教授）

日時：平成28年1月26日（火）18：00～

場所：金沢大学医学類教育棟 第2講義室

問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学 尾崎 紀之 TEL: 076-265-2156

金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学 堀 修 TEL: 076-265-2162

ミクログリアは脳常在性マクロファージとして知られ、病態脳において変性神経細胞や変性組織の貪食除去を行うとされる。しかし、変性神経細胞を除去するような粗大な貪食は実際にはかなり稀な現象と思われる。一方、ミクログリアがその突起を介して行うシナプスの微細な貪食は、正常脳においても常時観察されることが分かってきた。本講演会では、田中潤也先生が明らかにされてこられた、ミクログリアのシナプス貪食能について、特に、愛媛大学の医学科学生がその解明に関与してきた、ミクログリアのグルタミン酸作動性神経終末貪食による大脳基底核でのネガティブフィードバック機構の可能性や、睡眠覚醒リズムと関連した正常脳でのシナプス貪食能について、最新の知見をご紹介いただいた。

International symposium, Chosen Project (超然プロジェクト) in Kanazawa University

日時 2016年2月12日(金) 13:00～17:45 場所 金沢大学 医学部記念館

テーマ Metabolic syndrome-associated liver cancer

谷合麻紀子先生 (東京女子医科大学消化器内科)	Clinica overview of NAFLD/NASH
Yong-Bing Xiang, MD (Shanghai Cancer Institute, China)	Prospective studies of type 2 diabetes and cancer risk
Quentin M. Anstee, MD (Newcastle University, UK)	Genetic Modifiers of NAFLD
Dina Tiniakos, MD (Newcastle University, UK)	NAFLD under the microscope
常山幸一先生 (徳島大学医歯薬学研究部疾患病理学分野)	New animal models of metabolic syndrome-associated liver cancer
伊倉義弘先生 (高槻病院 病理診断科)	Chair
佐藤保則 (金沢大学形態機能病理学)	Chair
原田憲一 (金沢大学形態機能病理学)	Chair

連絡先 : 原田 憲一 金沢大学医薬保健研究域医学系 形態機能病理学 TEL 076-265-2195 FAX 076-234-4229

第26回金沢歯科口腔外科懇話会

金沢歯科口腔外科懇話会は、平成3年に金沢大学歯科口腔外科研修会としてスタートし、毎年回を重ね今年で26回になります。この会は金沢大学附属病院歯科口腔外科に患者さんを紹介して下さった先生と同窓の先生が集まり、歯科口腔外科の臨床と研究に関する研修を行う事を目的としています。本年は、金沢大学附属病院歯科口腔外科から16題の一般演題と特別講演を予定しています。本年の特別講演は神奈川歯科大学・歯科矯正学教授の河田俊嗣先生にお願いしました。「歯の移植」の最先端の診療について、とても興味深いお話が聞けます。

日時：平成28年2月27日(土) 場所：金沢エクセルホテル東急

お問い合わせは金沢大学歯科口腔外科医局まで TEL 076-265-2444

2015年度 金沢大学医薬保健研究域附属 脳・肝インターフェースメディシン研究センター 生体統御学部門 外部評価シンポジウム

日時：平成28年3月8日(火) 14:00～18:35

場所：金沢大学附属図書館医学図書館 十全記念スタジオ

特別講演 「糖代謝からみた老化機構－健康長寿薬開発への挑戦－」

山内 敏正 先生 東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 准教授

外部評価および特別講演 「若手研究者に向けて」 春日 雅人 先生 国立国際医療研究センター 理事長・総長

連絡先：金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学分野 尾崎紀之 TEL：076-265-2156 FAX：076-234-4221

脳細胞遺伝セミナー

佐々木えりか先生は世界で初めてマーマセットという小型のサルの子の遺伝子を改変し、トランスジェニック・マーマセットを作ること成功されたことで有名な研究者です(Nature 2009)。その後、この技術をもとにマーマセットのヒト疾患モデルをつくり、安全性・有効性を高精度に評価するための前臨床試験の実現をめざして研究を進めており、注目を集めています。このたび金沢にいらっしやる機会がありセミナーをして頂きました。

「遺伝子改変マーマセットのモデルの作出」

慶應義塾大学 グローバルCOEプログラム 実験動物中央研究所 応用発生学研究部 部長 佐々木えりか 先生

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

日時：2016年3月11日 18:00～19:00

主催：金沢大学医学系脳細胞遺伝子学 TEL：076-265-2365 E-mail：kawasaki@med.kanazawa-u.ac.jp

第29回日本創外固定・骨延長学会

会期：平成28年3月18日(金)～19日(土)

会場：石川県文教会館

会長：土屋弘行 金沢大学大学院医学系研究科機能再建学(整形外科学)教授

問い合わせ先：第29回日本創外固定・骨延長学会事務局(担当：松原) TEL：076-265-2374 E-mail: JAEFL29@med.kanazawa-u.ac.jp

内容：本学会は、創外固定器という体の外に装着し、体外から治療操作を行う治療機器を用いた治療法の検討や、骨延長(脚延長)法という、骨(脚)を延長させる治療法を検討する学会です。

脳細胞遺伝セミナー

グルタミン酸受容体は脳の興奮性シナプスでの主要な受容体である。このグルタミン酸受容体の機能はPSD-95などの足場タンパクによって制御されている。PSD-95はシナプスにおいてNMDA型グルタミン酸受容体を成熟型に置換するが、このPSD-95の機能は活動依存性であり、脳由来神経栄養因子BDNFが受容体TrkBを活性化することによって生じる。これらのメカニズムが機能不全を起こすと、脳の様々な病的変化を引き起こすと考えられている。本セミナーでは特にBatten病と結節性硬化症という2つの神経発達疾患のシナプスの機能異常について考察された。

「神経発達疾患におけるシナプス可逆性の意義」

Dept of Anatomy & Cell Biology and Pediatrics University of Illinois at Chicago, Assistant professor 吉井 聡 先生

場所：金沢大学医学類B棟1階小会議室

日時：2016年3月22日 13:00～14:00

主催：金沢大学医学系脳細胞遺伝子学 TEL：076-265-2365 E-mail: kawasaki@med.kanazawa-u.ac.jp

第44回北陸産科婦人科学会総会ならびに学術講演会

会期：平成28年5月21日(土)～22日(日)

会場：ホテル金沢

会長：藤原 浩(金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学 教授)

事務局：第44回北陸産科婦人科学会総会ならびに学術講演会事務局(金沢大学医薬保健研究域医学系産科婦人科学教室内)

学術講演会実行委員長：高倉正博[担当：橋向] TEL：(076)265-2425 FAX：(076)234-4266

内容：特別講演、共催セミナー(イブニングセミナー、ランチョンセミナー)、Plus One Project(学生・研修医向けの教育プログラム)、指導医講習会、一般演題(口演)、懇親会

幹細胞生物学セミナー

日時：2016年5月24日(火) 17:00～18:30

場所 医学図書館 十全記念スタジオ

演者：大塚 哲 先生 金沢医科大学 総合医学研究所 生命科学研究領域

演題：増殖因子シグナルによるES細胞の未分化性維持

連絡先：再生分子医学 赤木紀之 <tadayuki@staff.kanazawa-u.ac.jp>

共催：血管医学ポストゲノムセミナー/医学類MRTプログラムセミナー

ゲノム機能解析分野サイエンスセミナー

「ほんまですのん?! 長生きの方法教えます?!」

Age-related DNA methylation drift in mammals (哺乳動物における老化マーカーとしてのDNAメチル化)

前川 真治 博士 Associate Scientist Fels Institute for Cancer Research & Molecular Biology Temple University School of Medicine

日時: 平成28年5月25日(水) 17:00~18:00 場所: 金沢大学医学図書館 2階 十全記念スタジオ

Aging is manifested by the decline in health status and increasing probability to acquire age-related diseases, such as cancer. It is well known that the incidence of cancer increases with age. The relationship between age-related DNA methylation changes and the aberrant methylation patterns occurring in tumorigenesis was investigated in the early 1990s, and found the acceleration of age-related changes in tumors. Recently, we examined age-related methylation drift across species.

連絡先: 学際科学実験センター ゲノム機能解析分野 目黒 牧子 TEL: 076-265-2775, E-mail: mhorike@staff.kanazawa-u.ac.jp

第91回日本結核病学会総会

テーマ: 「医療スタッフの抗酸菌症卒後教育」

第91回日本結核病学会総会を5月26, 27日、石川県立音楽堂およびホテル日航金沢で開催します。北陸3県での開催は第17回(昭和14年、金沢市、大里俊吾教授会長)、第25回(昭和25年、金沢市、日置陸奥夫教授会長)、そして今回は3回目となります。会期中には、招請講演、特別講演、教育特別講演、教育講演、シンポジウムなどを含めて323演題が発表されます。我が国の結核病罹患率は緩やかに減少を続けていますが、呼応するかのよう卒前の結核学部教育の希薄化が卒後の医療従事者に抗酸菌症は過去の問題と看過されがちとなり、また、国民の結核脅威への関心の低下も周知のことです。そこで、本学会のテーマを「医療スタッフの抗酸菌症卒後教育-よりよいチーム医療を求めて-」としました。医療職への効率的な卒前・卒後教育を考える種々のプログラムを編成し、さらに、新しい抗酸菌症診断、免疫学的補助診断法、LTBI、(在日)外国人結核などにも力点を置きました。会期中には若手医療者向けに(卒後)抗酸菌症エキスパート集中セミナーを、さらに、Infection control doctor講習会と石川県民向けの公開セミナー(参加費無料)を予定しています。

連絡先: 能登北部呼吸器疾患センター 公立穴水総合病院内科・金沢医科大呼吸器内科 石崎武志

TEL: 0768-52-0511 FAX: 0768-52-0658

革新ゲノム情報学セミナー

日時: 平成28年5月27日(金) 16:30~18:00

場所: 医学図書館2階 十全記念スタジオ

演題: 「全ゲノムシーケンスによる肝癌の変異の包括的解析」

演者: 藤本 明洋先生 (京都大学医学研究科創薬医学講座 特定准教授)

内容: 研究者、大学院生を対象に、情報解析の方法と演者らの解析で明らかになった肝癌の変異の全体像についてご講演いただきます。

連絡先: 革新ゲノム情報学 田嶋 敦 Tel: 265-2715, E-mail: atajima@med.kanazawa-u.ac.jp

第34回日本生化学会北陸支部大会

日本生化学会北陸支部では年に一度会員が集まりその研究成果を発表している(年会)。またさらに年に一度、様々なテーマでシンポジウムを行っている。今回の学術集会は、その年回とシンポジウムを同日5月28日(土)に医学部記念館で行うものである。年会では北陸3県の会員や会員の所属する研究室の学生による口頭発表と一般講演が行われる。特に学生発表のセッションでは、例年、非常に活発なdiscussionが行われる。またシンポジウムでは、理化学研究所 吉田稔先生、東北大学 五十嵐先生の両名の講師をお招きし、転写ダイナミックスの新たな展開について講演である。

連絡先: 金沢大学医薬保健学総合研究域医学系 分子遺伝学 村松正道 (日本生化学会北陸支部支部長・理事)

TEL: 076-265-2176 (E-mail) muramatu@med.kanazawa-u.ac.jp

日本生化学会北陸支部ホームページ <http://square.umin.ac.jp/jbs-hoku/index.html>

北陸実験動物研究会第20回総会・第53回研究会

北陸実験動物研究会は、北陸3県の実験動物を用いている研究者、技術者および実験動物を取り扱う企業の情報交換の場として毎年数回開催されております。今回は、6月4日（土）13時00分より医学類G棟の第4講義室で開催予定で、企業からお一人、実験動物を用いた研究の第一線でご活躍されるお二人の先生にご講演いただくことになりました。皆様お誘いあわせの上、ぜひご出席いただきますようお願いいたします。

プログラム

維持会員ニュース

「基礎医学研究施設に於ける器材メーカーの役割 ～飼育従事者と動物に配慮した製品のご紹介及び会社説明」

テクニプラスト・ジャパン(株) 山下真由 様

特別講演 「Soxヘテロ変異の疾患モデルへの応用」 東京医科歯科大学 実験動物センター センター長/教授 金井正美 先生

「マウスミュータント系を用いた生殖器形成の解明の最前線: 性差は如何に制御されるか」

和歌山県立医科大学 先端医学研 遺伝子制御学研究部 教授 山田 源 先生

連絡先: 金沢大学学際科学実験センター 実験動物研究施設 TEL:076-265-2460 FAX:076-234-4240

第7回MRTプログラム・リトリート

第7回MRTプログラム・リトリートを開催。MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文講読会等に参加するものである。今回は第7回目のリトリートで今年度としては1回目となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時: 2016年6月17日（金）17:30～19:30 場所: 金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催: 医学類教育委員会

血管分子生物学（山本） TEL: 076-265-2181 E-mail: yasuyama@med.kanazawa-u.ac.jp

第4回日本アミロイドーシス研究会学術集会

開催日: 2016年8月19日（金） 会場: KKRホテル東京

大会長: 山田正仁

学術集会事務局: 金沢大学医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（神経内科学）

TEL 076-265-2293 E-mail amyloidosis@med.kanazawa-u.ac.jp

URL: <http://k-con.co.jp/4amyloid.html>

内容: 本学術集会では、「アミロイドーシスの分子機構と新規治療への展望」をテーマとして、本領域の研究や診療の進歩を学びその克服をめざして討論を行います。

特別講演: Central nervous system involvement in patients with ATTR amyloidosis

教育講演: アミロイドーシスを疑う、診断する

教育講演: ALアミロイドーシス～診断と治療のUPDATE～

シンポジウム1: アミロイドーシスの分子機構

シンポジウム2: アミロイドゲネシスを標的とした治療法の開発